



特集

「森林サービス産業」の拡がり

森林空間利用による山村振興とウェルビーイングの実現

日本は、国土の7割が森林で、地域毎に多様な植生が彩る世界有数の森林大国です。この豊かな森林空間を活かして、魅力的な体験プログラムを提供する山村地域が、全国に続々と誕生しています。

今回の特集では、森林空間の活用により、人も企業も山村も森も元気にする「森林サービス産業」について紹介します。

写真上：森のヨガ（写真提供：滋賀県栗東市地域）

写真左下：マウンテンバイク（写真提供：長野県伊那市地域） 写真右下：森での社員研修（写真提供：TDKラムダ株式会社）

森林サービス産業とは

「森林サービス産業」とは、健康、観光、教育など様々な分野で、豊かな森林空間を活用した体験サービスを提供し、山村地域に新たな雇用と所得機会を生み出す産業です。

これまで、森林空間を利用した取組は、自然愛好者やスキー客等をターゲットとしたハード整備が中心でしたが、近年では、旧来型の利用が減る一方、健康、観光、教育等の分野で、森林空間を活かした新たな取組が拡がってきています。

このような中、林野庁と（公社）国土緑化推進機構等は、2018、2019年度に、検討委員会を設置して、高付加価値型の森林空間利用を産業として成立させるための方策について検討を行い、「森林サービス産業」の展開方向に関する報告書を取りまとめました。

報告書を踏まえて、林野庁では、「森林サービス産業」の展開に向けて、現地でのエビデンス収集、森林サービス産業に取り組む山村地域に関する情報発信、企業と山村地域とのマッチングなどに取り組んできました。

新たな森林空間利用の意義や推進の方向性については、本誌2020年9月号で、詳しくご紹介しています



森林サービス産業



山村地域に新たな収入・雇用創出

Well-being 心豊かな暮らし

林野庁では、（公社）国土緑化推進機構と連携しながら、森林サービス産業に取り組む山村地域を「森林サービス産業推進地域」として登録しています。2024年1月末現在で、全国の50地域を登録しています。

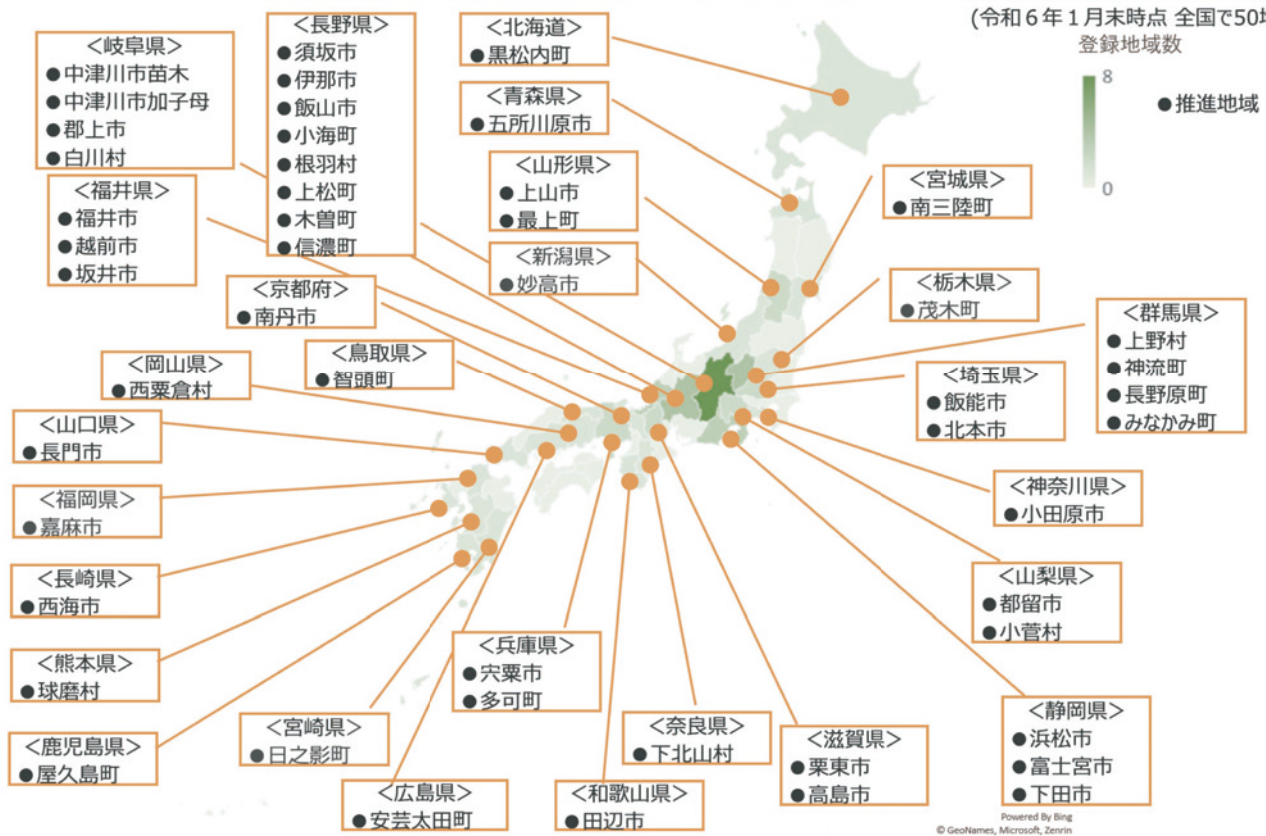
既に26地域で体験プログラム等の提供が始まっており、このうち20地域は、森林セラピー®、クアオルト®、健康ウォーキング等の健康分野、18地域はマウンテンバイク、フォレストアドベンチャー®等の観光分野、21地域はチームビルディングや森林環境教育など教育分野の体験プログラムを提供しています。ほとんどの地域では、複数分野の体験プログラムを提供しています。また、健康分野の体験プログラムに合わせて、宿泊施設が癒しを意識した宿泊プランを提供し、飲食店が地産地消の食材を用いた弁当を販売するなど、複数の事業者が連携する地域もみられます。

次に、健康分野、観光分野、教育分野のプログラムを提供する特徴的な地域を紹介しています。

森林サービス産業推進地域

森林サービス産業推進地域

(令和6年1月末時点 全国で50地域)
登録地域数



社員の健康づくり（健康分野）

長野県信濃町地域は、森林セラピー®を提供する「森林セラピー基地」の認定を受けており、「癒しの森®事業」として、町独自で育成・認定した「森林メディカルトレーナー」や「癒しの森の宿」が、森林の癒し効果を高める体験プログラムや地元食材を使った食事を提供しています。また、町内の関係団体が連携して、顧客窓口となる「しなの町 Woods-Life Community」を設立して、企業の社員研修や福利厚生等の受け入れを進めています。2023年12月現在で、39の企業等と協定を締結しています。2019年には、NPOとの協働により、法人向けの貸し切り型リモートワーク施設「信濃町ノマドワークセンター」をオープンして、自然の中でも都会と同様に仕事をできる環境を整えました。

多様なアクティビティの提供（観光分野）

神奈川県小田原市地域では、株式会社T-Forestyが中心となり、「ODAWARA FOREST BASE」として、森の中をマウンテンバイクで走行するフォレストバイク、樹齢300年のスギの原木が点在する森の中で冒険・展望が味わえるフォレストアドベンチャー®、キャンプ場やBBQ場等がある「いこいの森」など、多様なネイチャーアクティビティ



写真提供：神奈川県小田原市地域

フォレストバイク



写真提供：同右

信濃町ノマドワークセンター



写真提供：長野県信濃町地域

滝の前で深呼吸

施設を展開しています。同社は、江戸時代から続く林家である「辻村農園・山林」が、自社が所有する森林を多様に活用するため、設立した企業です。フォレストアドベンチャー®には年間15,000人、フォレストバイクには年間5,000人が訪れています。

キャンプ場経営から企業研修へ（教育分野）

群馬県長野原町地域にある「有有限会社きたもつく」は、年間宿泊者数10万人に上る日本有数のキャンプ場「北軽井沢スイートグラス」を運営しています。同社は、1994年に浅間山麓の荒地に木を植えて、キャンプ場の経営を開始しました。その後、社員の通年雇用・キャンプ場の冬期営業のためにコテージに薪ストーブを設置したことをきっかけに、薪ストーブ施工販売や薪製造を開始しました。2019年に



写真提供：群馬県長野原町地域

TAKIVIVA

は、地域の薪炭林240haを取得して林業経営も始めました。

2020年には、キャンプ場経営での経験を活かして、企業向け宿泊型ミーティング施設「TAKIVIVA」を開設しました。TAKIVIVAでは、薪ストーブや焚き火を囲むでのミーティング、協働作業としてのかまどでの炊事などを行うことができるとともに、同社の六次産業化事業の現場ツアーも受講できます。このように、社員研修の場、社内の人間関係やプロジェクトの内容を深める場等として企業に活用されています。

企業による森での体験プログラム

「森林サービス産業」の大きな需要先の一つが企業です。企業は、森でのプログラムにより、社員の健康づくりや、



写真提供：同上

現場ツアー

チームビルディングを進めることができます。森での取組は、「社員を大切に「する企業」としての企業イメージ形成を通じて、優秀な人材の確保につながる」とともに、オフィスでは得られなかった新たな視点や発想の気づきにもつながるかもしれません。また、山村の活性化やSDGsへの貢献にもつながり、社員のウェルビーイング実現と社会的な貢献を同時に行うことができます。

次に、保健指導や社員研修、福利厚生に森でのプログラムを活用している企業の事例を紹介します。

宿泊型保健指導に森のプログラムを活用

太陽生命保険株式会社は、2016年に、クアオルト®（療養地）による地域振興に取り組む山形県山市と連携協定を締結して、同市で生活習慣病リスクの高い従業員に対する宿泊型新保健指導を実施しています。

保健指導には、通常の健康講話等に加え、森での「クアオルト®健康ウォーキング」や地産地消の料理を組み込んでいます。日常の行動変容を促すため、宿泊指導後も、山市の専門家が電話等で6か月間サポートを行っています。

その結果、参加者の体重や腹囲が減少するなど、生活習慣病リスクの低減が見られました。参加した社員からは、「自然豊かな環境下で自分の健康を見つ

健康プログラム、体重等の変化

	1日目	2日目	体重	腹囲
6ヶ月後平均	<ul style="list-style-type: none"> 体組成検査、腹囲・血圧測定 グループワーク（行動目標づくり） 健康講話、セルフモニタリング説明 温泉入浴・散策、ヨガ 地産地消・低カロリー・バランスの取れた食事、管理栄養士のアドバイス 	<ul style="list-style-type: none"> セルフモニタリングによる体重・腹囲・血圧測定 早朝ウォーキング クアオルト健康ウォーキング ヘルシーランチ実習 振り返り・行動目標見直し 	▲4.8kg	▲5.6cm
最大減少			▲8.5kg	▲11.0cm

出典）太陽生命保険株式会社資料

脂質・血圧・血糖値・腹囲等に基づき、生活習慣病リスクが高い職員等を選定。健康ウォーキング参加後、行動目標の実施状況や体重、腹囲を6か月間管理し生活習慣病を予防。目標達成に向け、電話等で6か月間サポートを実施。

め直す機会を得た」「主食・主菜・副菜の揃ったバランスの良い食事を摂ることの大切さや運動指導等を学び、大変有意義であった」等の感想が寄せられています。

森のプログラムで社員交流

IT企業のアルファテックス株式会社は、社員の交流とリフレッシュを目的に、長野県小海町で社員研修を実施しています。社員は、滞在中、町が独自に認定しているセラピストの案内により、豊かな森林が広がる自然の中で五感を開くセラピューオークを行うとともに、町職員とのディスカッションや焚き火を囲んだ仲間との交流も行っています。研修以外に、若手のグループディスカッション、経営方針発表会などでも小海町を会場として活用しています。既に社員の半分以上が小海町を訪問しており、社員共通の話題ができたことで仲間意識の醸成につながっています。



写真提供：アルファテックス株式会社

セラピューオーク

健康づくりやメンタルヘルス予防

TOPPANグループ健康保険組合は、健康保険加入者の健康づくりやメンタルヘルス予防として、加入事業所が研修やレクリエーション等で森林セラピー®を実施する場合、森林セラピー基地等の受入側との調整や費用補助等の支援を行っています。

また、加入者が森林セラピー®を利用しやすいよう、長野県信濃町、小海町、木曾町、兵庫県宍粟市等にある保養施設等と利用契約を締結しており、加入者が森林セラピー®や宿泊の利用をする場合、費用の一部を負担しています。利用者からは、「森林セラピー®を体験して心身のリフレッシュができた」等の声が上がっています。



写真提供：TOPPANグループ健康保険組合

森林セラピー®

インバウンド需要の可能性

森林サービス産業のターゲットは、個人や企業等ですが、今後は、海外からのインバウンド需要の拡大も期待できます。特に、海外では、最近、Shinrin-yokuやForest Bathingとして、日本発祥の「森林浴」に対する関心が高まっています。

昨年10月には、「一般社団法人森と未来」が、米国の森林浴ガイド育成団体と連携して、日本での森林浴ツアーを実施しました。同ツアーには、7カ国から23名が参加し、日本の森や木の文化を学びつつ、長野県上松町「赤沢自然休養林」や東京都奥多摩町「登計トレイル」での森林浴を楽しみました。参加者からは、「日本の森はとても美しく、赤沢のヒノキの香りは素晴らしい」「日本人と森の文化はとても奥深く、もっと学んでみたい」等の声寄せられました。



写真提供：(一社) 森と未来

森林浴ツアー

森林サービス産業の拡大に向けた林野庁の取組

林野庁では、昨年10月から、「森林サービス産業推進地域」に登録された各地域について、体験プログラムや近隣施設等の特徴をとりまとめた紹介シートを作成し、順次公表しています。

また、他省庁事業も含めて森林サービス産業の推進に活用可能な補助事業をとりまとめた「一覧表」を作成し、活用事例とともに紹介しています。

2月7日には、東京都内において、推進地域の関係者や森での体験プログラムの活用に関心のある企業等を対象とした「山村と企業をつなぐフォーラム」を開催し、同地域と企業とのマッチング機会を提供しました。

このほか、企業に対して、森のプログラム活用に関するアンケート調査やヒアリングも行っています（今年度末に結果を公表予定）。

林野庁では、今後も、積極的な情報発信等を通じ、森林サービス産業の普及に努めてまいります。

林野庁ウェブサイト

「森林サービス産業の創出・

推進」

